

抗 GFP 抗体, ラット モノクローナル (1A5)

60-001 100 ug

保存温度: 4℃または-20℃で送付、-20℃で保存。

反応特異性: GFP および GFP 融合タンパク質

免疫原: リコンビナント GFP

用途:

- | | | |
|---------------------------|----------|-----------|
| 1. ウェスタンブロッティング (~1ug/ml) | 2. 免疫沈降 | 3. 免疫蛍光染色 |
| 4. クロマチン免疫沈降 (ChIP) | 5. ELISA | |

アイソタイプ: ラット IgG1 kappa

形状: 精製モノクローナル抗体 (IgG) 1mg/ml in PBS, 50% glycerol, 濾過滅菌

背景: **Green fluorescent protein (GFP)** は 238 アミノ酸 (26.9 kDa)から成り、もともとはオワンクラゲ *Aequorea victoria* より分離されたタンパク質で、青色光で励起された場合緑色の蛍光を発する(文献1)。細胞生物学、分子生物学の分野では、**GFP** 遺伝子を他のタンパク質遺伝子と融合させ、融合タンパク質の分布や発現を調べることができるため、**GFP** は有力なツールとなっている(文献2,3)。

この抗体は、無血清培地で培養したハイブリドーマの培養上清から独自のクロマトグラフィーなどを組み合わせたマイルドな条件下で精製された。

データリンク: Swiss-Prot [P42212](#) (*Aequorea victoria*)

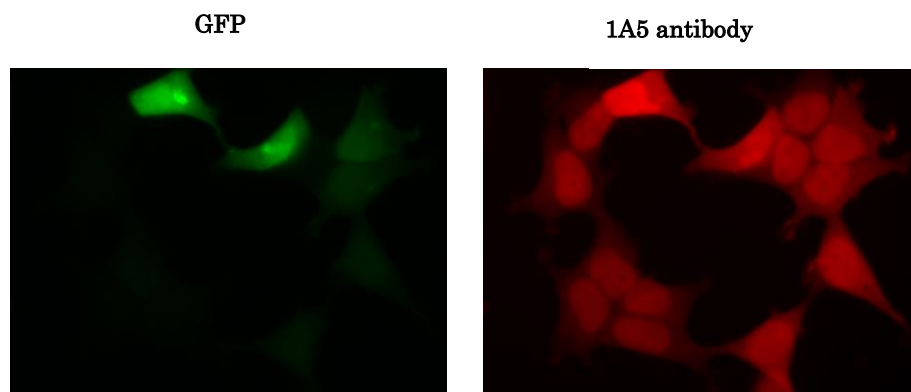


図1 COS1 細胞に発現した GFP (左図) と、同じサンプルを 1A5 抗体で免疫蛍光染色したもの (右図)。

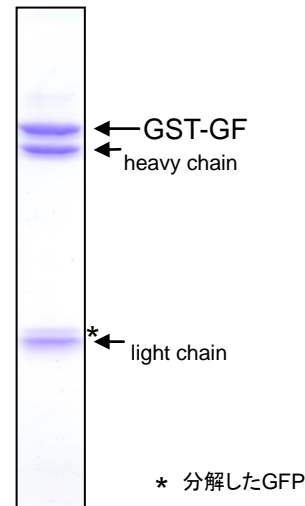
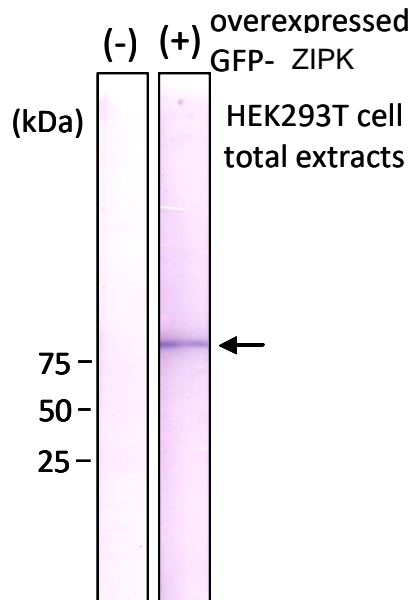


図3 GST-GFP 融合タンパクの 1A5 抗体による免疫沈降

図2 ウェスタンブロッティングによる HEK293 細胞に過剰発現させた GFP-ZIPK 融合タンパクの 1A5 抗体による検出
(-) 過剰発現をしていない HEK293T 細胞抽出液
(+) GFP-ZIPK タンパクを過剰発現させた HEK293T 細胞抽出液

文献: 本抗体は以下の論文で使用された。

- 1.Okazaki K. et al. Nuclear localization signal in a cancer-related transcriptional regulator protein NAC1. [Carcinogenesis](#). 2012 Oct;33(10):1854-62. **IP**
- 2.Maekawa K. et al. Tissue-specific expression of histone H3 variants diversified after species separation. [Epigenetics Chromatin](#). 2015 Sep 17;8:35. **ChIP**

関連製品：#[60-011](#) 抗 GFP 抗体、ウサギ血清